学校番号	1007

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」（教育図書出版）						
副教材等	高校硬筆の練習（教育図書出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

書写と書道に違いを学ぶ。
用具用材の説明を受け、表現の違いを学ぶ。
古典の臨書により基礎的な技能を身に付ける。
篆刻、カレンダー創作など幅広い活動に取り組み、書を愛好する心情を育む。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
・書の良さ美しさを感受し意図に基づいて構想し、表現を工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】
・主体的に書の幅広い生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ書を通して心豊かな生活を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	書の表現の方法や形式、多様性等について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。	書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯に渡り書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	楷書の学習	基本的な点画、線質の表し方を習得する。 漢字の楷書の古典の臨書に基づく学習により、多様な表現の可能性に触れさせる。	a：基本的な用筆法で書くことができるか b：古典の特徴をとらえ、多様な表現ができるか。 c：集中して説明を聞き、主体的に授業に取り組んでいるか。	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート 自己評価／相互評価 など 発表 など
	篆刻の学習	篆刻の生まれた背景を知り、特徴を理解する。 自分の名前を篆書体で印字して掘る。 作品の最後に押印する落款印の重要性を教える。	a：篆書体の基本的な用筆法で書くことができるか。 b：自分の名前を篆書体で医師にうまく彫り上げることができるか。 c：集中して説明を聞き主体的に授業に取り組もうとしているか。	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート 自己評価／相互評価など 発表 など
2学期	行書の学習	基本的な点画、線質の表し方を習得する。 行書古典の鑑賞と臨書を通してその書美を学ぶ。	a：基本的な用筆法で書くことができるか b：古典の特徴を捉え、流麗に描くことができるか鑑賞してどういった感想を持ったか。 c：：集中して説明を聞き主体的に授業に取り組もうとしているか。	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート 自己評価／相互評価など 発表 など

	隷書体	隷書の特徴を理解する。 現在でも広告文字で使用されることの多い隷書体を紹介し、親しみを持たせる。 古典の臨書を通して、安定感のある書美を学ぶ。	a：：基本的な用筆法で書くことができるか。 b：子連の臨書を通して、安定感のある隷書体を書かれているか。 c：集中して説明を聞き主体的に授業に取り組もうとしているか。	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート 自己評価／相互評価など 発表　など
3学期	仮名の学習	仮名の生まれた背景と変遷を理解する。 仮名の基本用筆を学ぶ。 仮名の古典を鑑賞、臨書しその流麗な書美を学ぶ。	a：仮名の基本的筆法ができているか。 b：古典の臨書を通して仮名の流麗な美しさを表現することができているか。 c：集中して説明を聞き、主体的に授業に取り組んでいるか。	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート	成果物 ワークシート 自己評価／相互評価など 発表　など

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度